

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | | |
|--------------------------------|-----|----|
| I. 理念に基づく運営 | 項目数 | 8 |
| 1. 理念の共有 | | 1 |
| 2. 地域との支えあい | | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | 2 |
| 5. 人材の育成と支援 | | 0 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | 1 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | 0 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | 5 |
| 1. 一人ひとりの把握 | | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | 1 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | 0 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | 3 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | 6 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | 4 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | 2 |
| 合計 | | 20 |

| | |
|-------|--------------------|
| 事業所番号 | 1472601317 |
| 法人名 | 特定非営利活動法人シオン相模原 |
| 事業所名 | グループホーム シオン相模原 |
| 訪問調査日 | 平成28年9月14日 |
| 評価確定日 | 平成28年10月15日 |
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION |

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | | |
|---------------|--|----------------|-------------|--|
| 事業所番号 | 1472601317 | 事業の開始年月日 | 平成12年12月1日 | |
| | | 指定年月日 | 平成26年12月1日 | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 シオン相模原 | | | |
| 事業所名 | グループホーム シオン相模原 | | | |
| 所在地 | (252-0137) 神奈川県相模原市緑区二本松4-8-7 | | | |
| サービス種別 定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 登録定員 | 名 | |
| | | 通い定員 | 名 | |
| | | 宿泊定員 | 名 | |
| | | 定員計 | 9名 | |
| | | ユニット数 | 1ユニット | |
| 自己評価作成日 | 平成28年8月27日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成28年10月19日 | |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の教えにもとづき、入居者を中心に考え支援、介護にあたる。 ・入居者のニーズを大切に外出等の行事を多く取り入れ、社会性を失わせないように、常に輝き続けることができるよう支援する。 ・月2回近所の公園にて、ご近所体操を行い地域の方々との交わりを大切にすると共に健康維持につとめる。 ・ホーム内で個々の能力に応じ、それぞれできる事をやっていただき、残存機能を大切にしていく。 |
|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|---------------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION | | |
| 所在地 | 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F | | |
| 訪問調査日 | 平成28年9月14日 | 評価機関 評価決定日 | 平成28年10月15日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>①グループホームシオン相模原は、「特定非営利活動法人シオン相模原」の運営です。同法人はグループホーム・保育園・障害者支援事業等の福祉事業を展開しています。この事業所は、平成12年12月に開設され、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づいて運営しています。JR横浜線「橋本駅」から10分程バスに乗り、「相原中央バス停」から徒歩5分の所に位置しています。周囲は戸建て住宅を中心とした閑散な住宅街で、事業所はウグイス色の2階建ての建物で地域の景観に馴染んでいます。</p> <p>②事業所の理念を「私たちは入居者中心に考えます」と掲げ、「キリスト教の愛、喜び、平安、寛容を基本に支援します」「住み慣れた生活を目指します」「地域との交流を大切にします」という3つの柱を根幹として、日常の介護の場で実践しています。管理者は、利用者の入居時の健康状態を正確に把握し、健康の維持と改善に力を入れています。また、月2回の事業所近隣の公園で行われている「ご近所体操」、近隣の方々約10名で作られた「シオン相模原協力会」の避難訓練・利用者の外出等の協力など、地域に密着した事業所として、日頃から活発に交流も行われています。</p> <p>③事業所では、職員の教育と研修にも注力しています。相模原市が政令都市になり、市独自の研修も増え、ローテーションを組み積極的に研修に参加しています。職員の意見を反映させる体制が整っており、利用者のために職員の音楽等の特技を活かす場も作っています。</p> |
|---|

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|----------------|
| 事業所名 | グループホーム シオン相模原 |
| ユニット名 | |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所・食堂等目につきやすい所に理念をかがげ、朝の引継ぎ前に全員で合唱し、共有すると共に実践につなげている。 | 「私たちは入居者中心に考えます」をスローガンとして、3つの項目を朝の引継ぎ時に唱和し、実践につなげています。また、事業所に毎月来訪される牧師先生のような話の中から、理念に基づいた言葉を探し支援の目標にしています。現在は「あなたがいてくれてありがとう」という感謝の言葉を目標にしてケアに取り組んでいます。 | 今後の継続 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の方々による、シオン相模原協力会があり、一緒に避難訓練を行ったり、行事に参加したり、ホームの行事等のお手伝いをさせていただいたり、日常的に交流している。 | 近所の方々中心に作られた「シオン相模原協力会」の方が避難訓練やクリスマス会など、事業所の行事の協力してくれます。昨年12月から実施している月2回の「ご近所体操」は、近所の方々との交流の場になっています。また、中・高生の実習の受け入れも行い、保育園との交流では運動会にも参加しています。 | 今後の継続 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ご近所体操をはじめる前にホームで歌っている歌を近所の方と一緒に歌ったりして交流を深めると共に、地域の方々に向けて活かしている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームにおける状況報告を行い地域の方々や高齢者支援センターの方や後見人の方々より意見をいただき、サービス向上に活かしている。 | 運営推進会議は、協力会会長・民生委員・高齢者支援センター・家族代表・利用者等が出席し、事業所のリビングで2カ月毎に実施しています。市からイベントの紹介、事業所から利用者の外出の報告・行事の紹介などを行っています。開催時間を13時30分からリビングで実施することで利用者の様子も見えていただけるようにしています。 | 今後の継続 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ケースワーカーの訪問時にお話をうかがいながら、シオン相模原便り等を渡したりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | グループホーム連絡会が、南区・中央区・緑区にあり、シオン相模原は緑区に入っており、連絡会には市の担当者が出席します。市独自の研修が増え、研修の場所も近くになり、情報が多くなっています。市の研修への積極的参加等により、高齢者支援課を含め、市との係りが多くなっています。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っていないが、外部からの侵入者よりホームを守る目的と、道路に面しているため交通事故から入居者を守るため、玄関の施錠は行っている。 | 「身体拘束」については、職員が外部研修に参加し、会議で情報を共有し周知しています。事業所前は車の往来も多く、安全確保のため玄関の施錠をしています。日頃から外出を多くすることにより、施錠が弊害を感じないようにしています。また、徘徊を含め、利用者ごとのリスクは職員間で共有して注意しています。 | 今後の継続 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員を研修に出したり、職員会議等で発表していただきながら、虐待が見過ごされることのないよう注意を払っている。 | | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | なかなか職員に対する学びの機会がないが、現実には後見人がついている方が多く活用している。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に入居者やご家族、後見人と良く話し合い理解、納得を図っている。 | | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ケアプランに押印していただく時に、ご家族のご意見等をいただくようお願いしている。 | 3ヶ月に1回、利用者の近況をお知らせする「シオン相模原だより」には、様々な行事での利用者の写真を添付し、理事長のコメントを掲載することで、家族等からの意見を出しやすくしています。昨年家族会を設立し、今年は年2回の開催を予定しています。また、ケアプラン押印時にも、直接家族からの意見・要望も聞いています。 | 今後の継続 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議の最後に必ず職員の意見を尋ねるように心掛けている。 | 全員が参加できるよう月2回職員会議を開催しています。職員の特性に合わせ行事担当を決めるなど、職員の意欲に繋げています。また、早めに職員会議の日程を提示することで、会議で職員が自分の考えや意見を言える様にしています。会議には副理事長が毎回出席し、現場職員の意見を集約して反映される体制を整えています。 | 今後の継続 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は何時も職員の働きやすい環境づくりに心をそそいでくださり、職員の声に耳を傾けて下さる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員個々の能力と研修の必要性を見きわめ、その職員にあった研修に出している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 市内の認知症対応型共同生活介護の会合に参加し、横のつながりをしっかりと、勉強会や相談をし合い、サービスの質の向上をはかっている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面接の際、お聞きした事を書類にまとめ、全職員に読んでいただき、要望等を共有し、入居者が安心できる関係づくりに努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホームの見学をおすすめし、事前面接等で御家族等の心配ごとや要望等を訪ね、関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 極力ご家族の要望に答えられるように努めている。御家族と一緒に受診や、亡家族のお墓参りや法事への参列などもしっかり行えるよう心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事やお茶の時間を一緒にとり、同じものを飲食したり、家事も一緒に行い、お互いに尊重しながら、くらしを共有している。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、共に良い時間が過ごせるよう支援している。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚、知人の面会があったら大切な時間が持てるよう努めている。 | 利用者の意向を確認し、昔住んでいた所など馴染みの場所にも行きます。行きつけの美容院に行っている利用者には、予約・送迎、買い物にも付き添っています。年賀状等の返事を希望する方には職員が代筆して、関係が途切れないよう支援しています。家族が居室で宿泊できるよう、布団等も準備しています。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 外出を多くしたり、皆で散歩を楽しんだり、暑い夏の間や雨の日はみんなでカラオケを歌って楽しんだりしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も時々訪問したり、御家族の質問等に耳を傾け、支援に努めている。 | | |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 入居者の希望や意向の把握に努め、話すことのできない方には、動きやしぐさから意向を把握するよう努めている。 | 花見・ぶどう狩りなど、事業所で多くの行事を実施する中、利用者の希望や意向を把握しています。買い物などで外出した際に思いを聞く場合もあります。運営推進会議を13時30分からリビングで行うことで、その場にいる利用者の声を聞き、「申し送りノート」で職員が共有するようにしています。 | 今後の継続 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居者一人ひとりの生活歴や生活環境等を記録や本人又はご家族から聞き、経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員間の引き継ぎをしっかりと行い、入居者の心身の状態や有する力等の現状の把握に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランの押印時にご家族等のご意見やご要望をいただいたり、職員会議時にモニタリング等を行っている。 | 月2回、利用者全員のモニタリングを行います。ケアプラン押印時に家族と話し合い、意見や要望を聞きます。月2回のかかりつけ医の往診時に、一人ひとりの状況を確認します。介護記録には利用者本人の意向も記入し、事前面談も行い、1カ月程度様子を見て管理者がケアプランを作成します。 | 今後の継続 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々、入居者の様子や行動等を記録し、職員間で情報共有し、実践やケアプランの見直しに活かしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 美容院の付き添い連絡、買い物付き添い、病院受診等も行っている。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事や祭り、清掃、市主催の行事等に参加できるよう支援している。 | | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問医療、他病院への受診等、入居者が安心できる支援を心掛けている。 | 入居時には主治医、または事業所のかかりつけ医に切り替えるかを家族と相談しています。事業所のかかりつけ医の往診が月2回あり、また、利用者の体調管理の為に週1回看護師の訪問もあります。歯科医は、希望者があれば往診します。精神科・眼科・脳神経外科等、新規で利用できる病院も調べています。 | 今後の継続 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の情報を訪問看護師などに伝え、診療医の指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の情報をいち早く、かかりつけ医（看護師）に連絡を入れるようにしている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状況を介助師全員が把握する。変化に気づくようにチームで共有する。（状況に応じた話し合い） | 入居時に「重度化した場合の指針」について説明し、同意書にサインをいただいています。終末期には、医師と家族で話し合いをし、看取りの介護計画を管理者が作成します。終末期・看取りの心構えを職員は持っていますが、経験の浅い職員にも十分な教育を行っています。 | 今後の継続 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | かかりつけ医に連絡や救急対応などするようにしている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害を想定した訓練を行う 地域の協力体制 (ホームだけでなく地域住民も参加) | 訓練は年2回、消防署が立ち合いの下、事業所の駐車場で水消火器も使用した実践訓練を実施しています。うち1回は、事業所で夜間想定・通報・避難の方法の訓練も行っています。また、災害時はシオン相模原協力会を含め地域の方の協力も得られる体制を整えています。備蓄は倉庫に水・米・食料品を2か月分準備しています。 | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりのプライバシー確保や人格の尊重に心がけている。 | 利用者の各居室にトイレがあるため、トイレはプライバシーが確保されています。職員が研修にも参加し、人格の尊重について理解しています。名前の呼び方は、「名字」で呼ぶ場合が多いですが、本人や家族の意向を聞いて、「名前」で呼ぶ場合もあります。 | 今後の継続 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の日常生活の中で、本人の希望を聞いたり、自己決定が苦手な利用者に対して、出来るように働きかける。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分達の都合を優先するのではなく、入居者一人ひとりがどのように過ごしたいのかを考え支援するようにしている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | あるものをただ身につけてもらうのではなく、特に女性に対してはおしゃれに見えるように服選びを実践している。 | | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事やおやつが楽しむことのできるよう支援している。利用者と一緒に片付けをしている。 | 食材は、管理栄養士のいる食材会社から定期購入しています。メニューは食材会社が作り、味付けは事業所のオリジナルです。時には行事食や外食等も取り入れ、食事が楽しめるようにしています。管理者の自家菜園や地域の方が収穫した野菜などを調理し、食事に一品追加することもあります。出来る方には、食器洗い等を手伝ってもらっています。 | 今後の継続 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|-------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の量やバランスに気をつけたり、水分不足にならないよう、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事あとの口腔ケアは欠かさず実践している。 | | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄の失敗がないようにトイレ誘導したり、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。 | トイレでの排泄を大切に考え排泄支援をしています。自己申告を含め排泄の状況を記録した排泄チェック表を基に、居室にあるトイレで排泄を促すことで、オムツの使用を控えると共に、羞恥心にも配慮した支援を行っています。便秘対策では、3食ともヨーグルトを出したり、重症化している利用者には便秘薬を使用することもあります。 | | 今後の継続 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の予防で食事後のヨーグルトや水分摂取・運動をしてもらうよう働きかけている。 | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 気持ちよく入浴ができるよう、シャンプー時に頭のマッサージをする、会話を楽しむなどしている。 | 週に2~3回、午後からを入浴時間として、利用者の意向に沿った支援を行っています。入浴拒否や同性介助を希望する方はいませんが、入浴拒否や同性介助を希望される場合は臨機応変に対応するようにしています。季節のゆず湯等楽しんでもらったり、体調がすぐれない時は、清拭やシャワー浴で対応することもあります。 | | 今後の継続 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|-------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安眠や昼間の休息も一人ひとり違った支援見守りをしている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者に出された薬の効用や副作用についてはノートに記載し、共有し合ったり、状態に変化が生ずるものに対しては、記録を取ったりしている。服薬時確認している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | レクリエーション等楽しめるようにしている。 | | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出機会を多くし、家族や後見人や地域の方々にも声掛け、協力を得ながら様々な所へ外出している。 | 利用者を中心に考えた外出を多く実施しています。春の花見、ぶどう狩り・バーベキューなどの行事には、シオン相模原協会の方にも参加いただいています。日課として近くの公園へ散歩に行ったり、地域の方と一緒に草むしりにも参加しています。散歩に行く道中も楽しめるように、しりとりなどをしながら歩いています。 | | 今後の継続 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本、本人の要望に応じている。自分で管理し、使うことのできる方には、ある程度、お金をお渡ししておいたり、できない方においては、一緒に出かけ、希望の物が買えるように支援している。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 要望があれば応じている。電話のできる方には自分でしていただき、できない方には取り次ぎをしたり、また手紙や年賀状の代筆等も行っている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎月定期的に決めてきれいに保つようになっている。食堂兼居間には空気清浄機を設置し、いつもさわやかな空気が流れているようにしている。また、冬場、居室に加湿器を置いている。 | 開放的なリビングは空気清浄機が設置され、静かでさわやかな空間です。壁には行事や外出イベントでの写真と、利用者の書初めや和歌などが貼られています。玄関ではプランターでナス・キュウリ・ネギ等を育てており、食卓に上がります。居室の掃除は3日に1度行い、利用者の方もできる範囲で手伝っていただきながら環境美化に努めています。 | 今後の継続 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 思い思いの所に座り、居眠りをしたり、縫い物をしたり、テレビを見たり、談話を楽しんだり、ホールが楽しく過ごす場所になるよう支援している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の希望通りになるようにしている。家具は持ち込み自由とし、ご家族にも喜んで使っていただけるよう、椅子を置いたりして。また泊まりを希望されるご家族には寝具の準備もしてある。 | 居室は13畳と広く、トイレ・洗面台・クロゼットなどが設置されています。利用者が安らぎを得るような使い慣れた家具・備品などを持ち込んでいます。テレビ・机などと共に家族の写真を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせる空間になっています。ドアに顔写真付きの名札があり、災害時の安否確認にも活用できるようにしています。 | 今後の継続 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の生活力が低下しないよう心掛けている。各居室にトイレがあり、自由に使えるように手すりも設置してある。できない方には、ポータブルトイレも設置し、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。 | | |

目 標 達 成 計 画

事業所

特定非営利活動法人
グループホーム シオン相模原

作成日

〔目標達成計画〕

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における 問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた 具体的な取組み内容 | 目標達成に 要する期間 |
|------|------|------------------|-----|-----------------------|----------------|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。